

土浦平和の会

ニュースNO・69 1998年11月-2

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

信濃路の旅 NO2

平和の旅に参加して

水戸市 小野美紀子



「お天気によかったわね」の声しきりの中、バスでの信濃路の旅が始まりました。最初に訪れたのは、小高い山の頂に建つ無言館。東京美術学校卒業生を中心に、戦争で亡くなった画学生の遺作品が収蔵されているのですが、若くして(20代が多い)それも志半ばで戦地に赴いた無念さはいかばかりだったろうと、胸の締め付けられる重いがしました。暗い気持ちになり、無言のまま外に出て、青い空と木々の緑を目にしたとき、なぜかホッとして、深いため息を漏らしてしまいました。

さて、つぎは、気分をガラリと変えて、かの有名な「ちひろ美術館」へ。ここでは、世界の絵本展も開催中だったので、おばさん達もすっかり童心に返り、あれやこれやとおみやげ選びに夢中。その楽しさを満喫後、1日目の旅は終わりました。2日目は、松代町の大本営地下壕の見学です。これは、第2次世界大戦に備え、天皇、軍、政府等を東京から松代町へ移転させる計画として掘られたもので、昭和19年11月から9ヶ月間、当時のお金で約2億円、300万人の住民や朝鮮人が強制連行され、多くの犠牲者を出したところです。壕は碁盤の目のように掘られ、その延長は10数キロにも及ぶそうです。ただ、見学できるのは500メートルの区間ですが、それでも広さは十分に想像することができます。天皇の御座所も拝見し、その行き届いた配慮とは裏腹に、労働者(特に朝鮮人)の過酷な作業を思い、憤りと同時に心を痛めてしまいました。壕の1部は現在、地震研究所に利用されております。今回、初めて参加した平和の旅は、ガイドさんの詳しい説明も聞くことができ、日頃平々凡々と毎を送り、戦争の意識がない私にとって、観光では得られない貴重な旅でした。それとともに、戦争の痕跡が残るこの地下壕が、高校生たちによって甦ったことに拍手を贈りたい気持ちです。私も戦争の悲惨さを自分の子どもに話さなければ・・・とつくづくおもいました。

無言の重みを感じて

牛久あひるの会 石毛 知子



この秋の平和の旅は、目的地3カ所とも以前から訪ねたいと願っていた所ですし、3度目のチャンスでもあったので、ほかの事はすべてキャンセルしてその日を待っていました。

「無言館」とは、これに代わる言い方はないと思えるほどピッタリした重みのある名前です。いつとぎれるか分からない青春時代の、その限られた時間の中で、どんな思いを込めて絵筆を走らせたのか・・・。「生きて帰ってきたら必ず続きを描くから・・・。」と言い残して発ったという、恋人の絵の清純な美しさ。妹や母の絵からにじみ出てくるやさしさ。その愛がじーんと伝わってくる作品の数々。絵にまつわる短い解説文も感動的なものでした。2度と帰れなかった青年達の無念さを思うとくやしい。

松代「大本営」となるはずだった地下壕は保存運動を続けた地元の方々の尽力で、日本の加害者としての数少ない証拠として迫力あるものでした。勝手に「徴用」されて殺されていった朝鮮の青少年達の恨みの声が聞こえてくるようでした。天皇の「御座所」にも腹が立ちました。私たちのもぐっていたトタン1枚で入口を蓋した防空壕は一体何だったのか? 天皇を頂点とする国内外の様々な支配と差別の仕組みについて、つくづく考えさせられました。

しかし、第二次大戦から53年もたつ今、日米の新ガイドラインに基く周辺事態措置法などという物騒な法案が持ち出され、地方自治体の職員まで洗浄にかり出される危険性が出てきたのですから、恐ろしいことです。今度の平和の旅はタイムリーでした。地球上に紛争は絶えません。私はもう、加害者にも被害者にもなりたくありません! 子ども達の時代も平和であって欲しい! 心して平和を守る活動をみんなでやっていかねば・・・と思

知らされたような旅でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。

行事ごよみ

- 10・25 平和の旅(無言館・ちひろ館)
、26 (松代大本営跡)
- 11・17 平和の会理事会(1中地区公民館)
- 11・20~23 日本平和大会(佐世保)

今年も甲州ワイン取り扱います

甲州ヌーボー(白) 勝沼ワイン(赤) 1200円